

かたの瓦版

この時、交野は動いた

=元号でたどる交野②=

延長(923-931) 醍醐天皇・朱雀天皇

★天皇みずからが定めた元号

■延長1(923)秦の姉子小松寺を興す(「小松寺縁起」)

■延長8(930)平安時代星田山一帯は禿山だった(「小松寺縁起」)

天曆(947-957) 村上天皇

★禅譲で生まれた「天曆の治」

■天慶3(949)この年より少し前、交野三宅山一帯は石清水八幡宮寺領荘園となる(「石清水文書」)

延久(1069-1074) 後三条天皇・白河天皇

★画期的な「延久の荘園整理令」

■延久元(1069)石清水の神官森公文、警固観音の堂を再興す。これより森の庄の名が始まる(池田麗一著『須弥寺沿革史』)

嘉承(1106-1108) 堀川天皇・鳥羽天皇

★なぞの彗星により改元

■嘉承2(1107)京都から熊野社参拝道中の遥拝及び休憩所として、傍示の八王社祀られ、峡崖越は熊野参りに至近の要道となる

保安(1120-1124) 鳥羽天皇・崇徳天皇

★4度目で採用された元号

■保安4(1123)この頃傍示蓮華寺建立

久寿(1154-1156) 近衛天皇・後白河天皇

★不運が続く崇徳天皇

■久寿2(1155)星田牧は鳥羽院庁に願いでて、興福寺別院円成院の荘園となる

■星田の西南荘園領境に傍示木をあらため、以後「ほうじ川」という

治承(1177-1181) 高倉天皇・安徳天皇

★「治承寿永の乱」が始まる

■治承元(1177)郡津明遍寺開祖明遍は、高野山にいて、京都黒谷の法然に帰依し、念仏修行のため東高野街道を往復して郡津に休憩所を設け、後これが明遍寺となる(「明遍寺所蔵記録」『新撰往生伝』)

建仁(1201-1204) 土御門天皇

★続く將軍交代劇

■建仁3(1203)土御門天皇交野に遊獵す(『明月記』)

元久(1204-1206) 土御門天皇

★北条執権制の始まり

■元久2(1205)土御門天皇交野に遊獵す(『明月記』)

建永(1206-1207) 土御門天皇(『明月記』)

★鎌倉仏教の隆盛と弾圧

■建永元(1206)土御門天皇交野に遊獵す(『明月記』)

建保(1214-1219) 順徳天皇・仲恭天皇・後堀川天皇

★朝幕が直接対決した「承久の乱」

■建保元(1214)この頃開元寺は交野山上に寺院を移して岩倉開元寺と称し、天台宗山岳寺院となる(発掘調査の出土品により鎌倉初期と推定)

弘安(1278-1288) 後宇多天皇・伏見天皇

★2度目の蒙古襲来と霜月騒動

■弘安四(1281)亀山院私市に行幸し獅子窟寺薬師仏に病氣平癒を祈願し、平癒の後伽藍を再興す。私市に「弘安四年四月十五日」銘 石造地藏菩薩立像建立。

嘉元(1303-1307) 後二条天皇

★北条一門同士が突如の乱闘

■嘉元2(1304)

亀山院は私市観音寺の伽藍を整え、寺田を寄進する。また獅子窟寺を修復し、石段を築く。

徳治(1306-1308)後二条天皇・花園天皇

★**混迷する両統迭立、**によって国を治める

■徳治元(1306)獅子窟寺に亀山院および同皇后の供養宝塔建つ。

延慶(1308-1311)花園天皇

★**淡々と続く政権**

■延慶 2(1309)・星田新宮山八幡宮境内に石造物建立。



元弘(1331-1334)後醍醐天皇・光厳天皇

★**「元弘の乱」**で鎌倉幕府滅亡

■元弘 3(1333)私部城主安見清賢は讃良親王に従って吉野山に立て籠り戦死す。

正平(1347-1370 南朝)後村上天皇・長慶天皇

★**抑圧されたる*ばさら大名**

■正平三(1348)赤松則村(円心)、私部に光通寺を建てる。

■正平 7(1352)後村上帝八幡行在所にある時、交野郷軍は八幡の宮方に糧食を送る(『園太暦』)交野郷士は楠木正儀に従い、荒坂山の戦いに加わる(安見家系譜)

交野の郷軍は八幡山の宮方に糧食を送るため、足利方細川頼氏(頼朝)は交野を焼き払う(『園太暦』)

■正平 10(1355)この頃後村上天皇は河内天野山の皇居に別峯(私部先光通寺開祖)を招き、その禪を問う(「円光国師行動記」)

■正平 21(1366)星田神社境内に正平二十一年在銘の石塔があった

元中(1384-1392 南朝)後亀山天皇

★***甲子革命**による同時改元

■元中 9(1392)八月十一日長慶上皇は越中より竹内惟真等を従えて獅子窟寺に臨幸(「竹内家文書」)

十月二十二日長慶上皇は獅子窟寺で畠山基邦国のために難を受けられる(「竹内家文書」)

応永(1394-1428)後小松天皇・称光天皇

★**幕府支配の確立と勘合貿易**

■応永 9(1402)この年夏僧別峯は私部光通寺に入る。八月僧別峯私部光通寺で寂(「円光国師行動記」)寂。

■応永18(1411)將軍足利義持、光通寺寺領安堵の教書を与える(光通寺所蔵記録)

■応永 30(1423)星田庄の和田出雲寺安直妙見別当となり、以後三代つづく(神戸市中部よし子所蔵和久田家系譜)

正長元(1428-1429)称光天皇・後花園天皇

★**將軍・天皇不在の空白期間**

私部城主安見右近は石清水八幡宮領三宅山の私市・星田山の巨木を伐って城の材とする。星田庄の和田出雲守安直はそれを諫めたきがきかれず。安見のもとを去る(神戸市中部よし子所蔵和久田家系譜)

嘉吉(1441-1444)後花園天皇

★**幕府の権力崩壊の始まり**

■嘉吉元(1441)天台宗の尼寺無量光寺へ赤松満祐の兵乱入し、幕軍のために寺は焼き払われる(『無量光寺四百五十年史』)。

寛正(1461-1466)後花園天皇・後土御門天皇

★**天皇の忠告を無視した將軍・義政**

■寛正 1(1460)星田の庄、和田(和久田)出雲から後三代、妙見宮の別当職となる(神戸市中部よし子所蔵和久田家系譜)

文明(1469-1487)後土御門天皇

★**「応仁の乱」**終結する

■文明 8(1476)本願寺蓮如の遊化により倉治村の願心(中住左内)蓮如に帰依し、倉治善通寺を創建

する。

後土御門天皇倉治機物神社へト部兼俱をつかわし、天下平安を祈願せしめ、十六善神画像を寄進す。(画像は現存)

■文明 11(1479)石仏の道阿弥陀三尊石仏に「文明十一年己亥二月日道満」の銘あり。



磨崖三尊像(市指定文化財)

延徳(1489-1492)後土御門天皇

★下剋上の嵐が吹き荒れる

■延徳元(1489)無量光寺の祖星野親忠將軍義尚に従って近江の六角軍征伐に出陣す(無量光寺系図)

明応(1492-1501)後土御門天皇・後柏原天皇

★室町幕府 10 代將軍が追放される

■明応元(1492)後土御門天皇私部光通寺を勅願所とす。

■明応 2(1493)星田小松寺(妙見川の西、法華宗)境内に明応二年在銘の墓塔残欠現存す。

■明応 3(1494)

無量光寺の祖星野親忠私部に隠居し、赤松満祐の乱に焼けた無量光寺を再興す(『無量光寺四百五十年史』)。

■明応 4(1495)無量光寺一世了道は本願寺蓮如に帰依し、天台宗を改めて、浄土真宗とする(『無量光寺四百五十年史』)。

天文(1532-1555)後奈良天皇

■天文 14(1545)磐船明神の巨石に住吉四神およびその付近に不動像(天文十四年銘)彫られる。

■天文 17(1548)星田新宮山八幡宮に宝篋印塔
天文 17 年銘建立。



不動明王



宝篋印塔

■天文 18(1549)星田光明寺信者は逆修墓塔 天文 18 年銘建立。

■天文 20(1551)私部城主安見直政、河内高屋城にて、河内守護代となる(『畿内兵乱記』)。

■天文 22(1553)この頃星田の和田兵衛丞安総三好長慶に属す(和久田し系図)

永祿(1558-1570)正親町天皇

★「桶狭間の戦い」で信長が世に出る

■永祿 2(1559)畠山高政は安見直政をせめて高屋城を奪回し、その恩賞として、星田外六ヶ所をその臣遠藤昌親に与える。それより昌親は星田小松城に拠る。

■永祿 5(1562)津田城主周防守正明飯盛山の三好長慶に属す(藤阪松村健三郎所蔵藤井家記録)

■河内教興寺の戦いに畠山高政は三好長興のため大敗、後遠藤昌親らを従えて堺から紀州へのがれる。この戦に昌親の弟俊親討死し、星田寺に葬る((東京都星田晋五所蔵星田家系譜))

■永祿 6(1563) 星田寺境内に遠藤俊親の墓と称する一石五輪塔(永祿六年在銘)現存。

獅子窟寺境内アビラウンケン碑(永祿六年在銘)現存。



改元理由の一つ

じっかんじゅうにし ^{かつし} 甲子革命の年や ^{しんゆう} 辛酉の年は、混乱
の起きやすい年と考えられており、それが理由で改
元されることも多かった。

前者を【^{かつしかくめい}甲子革命】、後者を【^{しんゆうかくめい}辛酉革命】という。

*^{ばさら}ばさら(婆娑羅)とは、鎌倉時代末期に流行した、
権威に反抗し、奇抜なファッションや振る舞いで我
が道を進む生き方のこと。

=了=

参考資料:交野町史復刻編